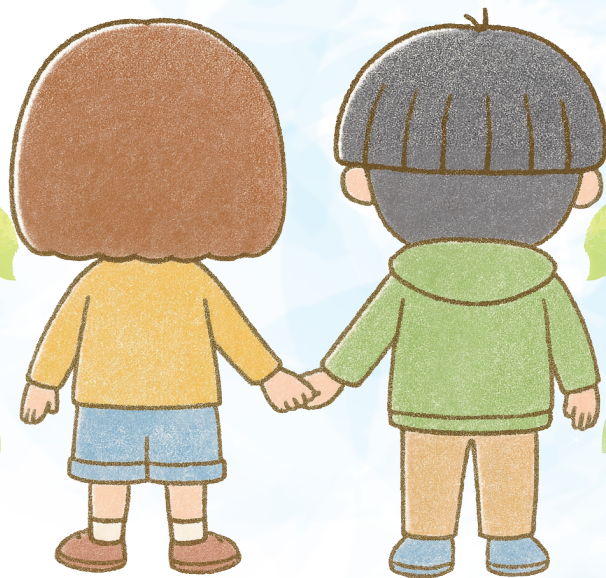


# 夢を描く、体系的な 授業づくりハンドブック

子どもの姿を変える授業は  
教育課題に対して「ほぼほぼ万能」

4つの章でポイントを解説



夢を描く、体系的な  
授業づくりハンドブック

著作者：柏崎授業づくりゼミ

令和8年2月1日発行  
編集兼発行人：井口 廣之 発行所：開隆堂出版株式会社  
〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1  
(03) 5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6116 (編集)

【非売品】 本資料は「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されたものです。



開隆堂出版株式会社  
<https://www.kairyudo.co.jp/>

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03 (5684) 6111

北海道支社	〒060-0042 札幌市中央区大通西11-4-2152 山京ビル7階	☎011 (231) 0403
東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-10-7 サンライン第66ビル5階	☎022 (742) 1213
名古屋支社	〒461-0004 名古屋市東区葵1-15-18 オフィスサンナゴヤ9階	☎052 (908) 5190
大阪支社	〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16	☎06 (6531) 5782
九州支社	〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階	☎092 (733) 0174



開隆堂

## メッセージ

若手の先生もベテランの先生も、教諭も研究主任も  
管理職の先生も…

みんなで楽しく、学校ぐるみで授業をつくり、  
公開し、語り合い、夢を描きながら全ての人たちの、  
現在と未来の幸せを創っていきましょう。

## ナビゲーター（2人とも先生です）



### ルナちゃん

授業づくりの悩みだらけ。  
日々悩みながらも明るく前向きに授業づくりに  
取り組んでいる。



### テラくん

ルナちゃんのお兄ちゃん、研究主任として活躍中。  
授業づくりに悩むルナちゃんの相談にのってくれる  
頼れる存在。

## 目次

メッセージ	表紙裏
目次	1
1 授業は、教育課題に対して「ほぼほぼ万能！」	2
<b>第1章 1時間の授業づくり</b>	<b>3</b>
2 まず「終末の姿」を、夢を描くように、生き生きと描こう！<1時間の授業づくりで>	4
3 次に、「ねらい」を、「終末の姿」から設定しよう	6
4 「導入」は！？	8
5 「展開」「終末」のポイントは？	10
6 「手立て」の打ち方	12
7 「評価」って何のためにあるの？……子どもの幸せのためだよ	14
8 1時間の授業の「指導案」の書き方（例）	16
9 特別支援教育の考え方を学級授業で生かす	18
<b>第2章 単元の授業づくり</b>	<b>21</b>
10 単元を創ろう！～夢を描きながら！～ 1時間だけでは無理でも、（小）単元なら子どもは変わる！	22
11 夢を描き、戦略的に単元指導計画をつくろう！～考え方～	24
12 夢を描き、戦略的に単元指導計画をつくろう！～実際の書式例～	26
<b>第3章 研究主任の役割</b>	<b>29</b>
13 「研究主任」を任されても大丈夫！	30
14 効果的な「授業観察」のやり方	32
15 元気が出る「協議会」のやり方	34
16 授業公開場面はどこがよいか？	36
17 研究主題を再考してみる	38
<b>第4章 スクールリーダー、地域リーダーの役割</b>	<b>41</b>
18 学校ぐるみの授業づくり	42
19 今の時代、「生きる目標」を共有しながら、「授業づくり」や「学級づくり」を！	44
20 授業づくりは人生のすべて！①	46
21 授業づくりは人生のすべて！②	48
22 論文を指導するのは大変だなあー！？	50
23 指導主事による授業指導は…	52
授業づくりリーフレット	54

この資料を読むに当たって・・・

## 授業は、教育課題に対して「ほぼほぼ万能！」



あのね、お兄ちゃん、私たちって教員だけど、  
最も大切にしなければならないことって何？



ルナちゃん、それは「授業で子どもを変える」ことだよ。  
ただし…一人残らず、どの子どもも、だよ！

### 1-1 | この資料を読むにあたって・・・

この資料は、

第1章 | 1時間の授業づくり

第2章 単元の授業づくり

第3章 研究主任の役割

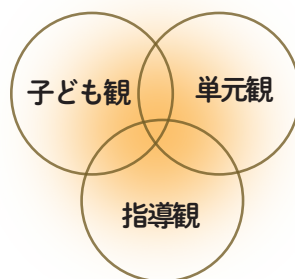
第4章 スクールリーダー、地域リーダーの役割

の4章からつくってあるけど、どこから読んでもいいんだよ。

ただ、下の図の三つの「観」と、その下の二つの「授業づくり」などについて、ルナちゃんなりの考えをもちながら読んでね。

そして、研修で学んだことや、書籍や雑誌、SNS、先輩の話、各機関から出ているリーフレットなどからの情報が、下の図のどの部分のことなのか、を意識していくことが大事だね！

### 1-2 | 大切な三つの「観」



単元の授業づくり

1時間の授業づくり

導入 展開 終末

課題 発問 手立て 評価

一番大切なのは、子どもたちをこんな姿にしたいなあ～と、夢を描きながら、みんなで授業づくりを進めていくことだよ！

#### MEMO

## 第1章

# 1時間の授業づくり

まずは、考えやすい1時間の授業づくりから始めよう！



でも、単元の授業づくり（第2章）から始めることも  
大事だけどもね！

## まず「終末の姿」を、夢を描くように、 生き生きと描こう！ <1時間の授業づくりで>



あのね、お兄ちゃん、授業がうまく成り立たなくて困ってるの。  
どこから手を付けていいかも分からないわ。どうすればいいかな？



ルナちゃん、その答えは簡単！ まずもって、授業の終末に、子どもたちをどんな姿にしたいのか、その発言や、行動、気持ちなどを具体的に描くことから始めるといいよ。  
それが「ねらい」のもとになるものだよ。

### 2-1 終末（ゴール）から描く！

「導入」で、どの子もやる気にさせたり、その後の「展開」で意欲的に活動させたりするのは大事だよ。それを考えるとき、肝心の終末の姿をあらかじめ具体的に描いていないと、授業が糸の切れた凧のようにさまようことがあるよ。



言い換えると、「主体的」「対話的」な学びは実現しても、「深い学び」に向かっていかないってということかな？これでは学力は定着しないし、授業も何となく「楽しかった」だけで終わってしまうこともあるね。力のある先生は、そこをきちんと押さえているんだ。

### 2-2 授業の終末の姿とは？

では、その終末の姿とは一体どんなものなのかな？ それは、次に示すような「こんな」の部分をしていねいに具体的にしたものだよ。

- 「こんな」ことをノートやタブレットに書いたり発言したりできる。
- 「こんな」行動、動作をすることができる。
- 「こんな」問題を解くことができる、説明できる。

これだけだとピンとこないかもしれないね。もし、ある理科の先生が、単元「天気の変化」のまとめの授業で、終末の姿を・・・

24日の天気を予報できる。

という程度の姿しか描いていなかったとするよね。  
そうすると、多くの子どもたちは、先生と同じように「明日の天気は○  
○でしょう」という予報しかできない可能性があるかもね。

#### MEMO

そこで、その授業の終末で子どもに記述させたい内容例を次のように描いておくとするよ。

「24日は午前中、西高東低の強い冬型の気圧配置となるため、日本海側では風が強く雪、太平洋側では乾燥した晴れの日になります。夕方以降は、等圧線の間隔が広がるため、天気が回復し、風も弱まってきます。

続いて、アメダスによる降水量予想は、午前中、日本海側では雪や雨となりますが、降水量は1mm以下となりそうです。夕方以降は、日本の南から徐々に天気が回復していきますが、北海道の海沿いなどでは低気圧の影響から若干雨が残る予報となります。

24日は、ホワイトクリスマスイブとはならないみたいです。」

ルナちゃんは、「ここまで事前に描いておく必要があるの？」と思うかな。でも、こうやって描いて（書き出して）おくとなんかそうなるんだよ。自ずと、終末の姿に向かう手立てを入れるようになるからね。

### 2-3 子どもの姿は教師が思い描く以上にはならない

先生が、まずもって終末の姿を具体的に描いていれば、そこに向かって、どの子も、静かな意欲をかき立てる導入や、みんなと考えながら学びを進める展開を、どうすればいいかが見えてくるんだね。

ここでいう「描く姿」とは、どの子も、ひとり残らず、生き生きとした姿（＝黙々と深く学んでいる姿、一步も譲らず意見を述べていた子が他者の意見を取り入れてまとめをしている姿、その子にとってやや難しい問題にチャレンジして解けた姿、など）であることが大事だね。

### 2-4 終末の姿 = ほぼほぼ「ねらい」そのもの

と、考えてもいいんだよ。「えっ？こんなに長ったらしい文章を授業をする前に描いておくの？」とルナちゃんは思うかもしれないね。でも、それくらい具体的な姿で想定して授業に臨むことが大事だと思うよ。

### 2-5 終末の姿を十分に「生き生き」と描くことができれば、それは「レールに乗せる」ことにはならない

子どもが生き生きと学ぶ姿を期待するとき、「子どもをレールに乗せないこと」と言うことがあるよね。でも、ルナちゃんが十分に、躍動する子どもの姿を描くことができれば、そのレールははみ出しを許さない堅いレールではなく、「輝くレール」となったり、「大空に向かう滑走路」的な道筋を子どもに準備するレールになったりするんだよ！

## 次に、「ねらい」を、「終末の姿」から設定しよう



あのね、お兄ちゃん、終末の姿を具体的に、生き生きと描くことが大事だと分かったよ！それが、ほぼほぼ「ねらい」でいいのかしら？



ねらいは、終末の姿そのものでもOK。ただ、少し簡単にした上で、「どんな活動を通して」を前半に入れ込むと、これだけで授業の流れが分かるようになるよ！

### 3-1 | ねらいは、超具体的に！

終末の姿を思いっきり、具体的に描いたよね。そのままねらいとしてもいいんだけど、一旦、少し要約してみるね。例をあげると、前のページで描いた終末の姿は以下の通りだよ。(再掲)

「24日は午前中、西高東低の強い冬型の気圧配置となるため、日本海側では風が強く雪、太平洋側では乾燥した晴れの日になります。夕方以降は、等圧線の間隔が広がるため、天気が回復し、風も弱まってきます。

続いて、アメダスによる降水量予想は、午前中、日本海側では雪や雨となりますが、降水量は1mm以下となりそうです。夕方以降は、日本の南から徐々に天気が回復していきますが、北海道の海沿いなどでは低気圧の影響から若干雨が残る予報となります。

24日は、ホワイトクリスマスイブとはならないみたいです。」

ここまで終末の姿を具体的に描いているのであれば、ねらいを…

24日の、時間ごとの気圧、天気、風、降水量を地域ごとに予報できる。

という具合に要約してもいいんだよ。短くなったけど、気圧、天気、風、降水量の4つがきちんと入っているからね。そして、これにたどり着くために「どんな活動を通して・・・」を前段に付け加えるといいよ。例えば、以下、(A 活動内容)のように書いてみるといいよ。

21日から23日の天気の変化をもとに規則性を見いだす活動を通して  
(A 活動内容)

24日の、時間ごとの気圧、天気、風、降水量を地域ごとに予報し発表できる。  
(B 目指す姿)

#### MEMO

### 3-2 | ちょっと慣れてきたら… ねらいを、子どもの実態に即して変える ～活動のさせ方を工夫～

こんなふうに、ねらいを(A 活動内容)と(B 目指す姿)でつくるようにしていけば、子どもの実態を変えていくために、様々なものを入れ込むことができるようになるよ。(下線部。下線部以外は共通。)

#### ● いじめが起こりそうなクラスでは…

21日から23日の天気の変化をもとに、どの発言に対しても同じように拍手をし、それに対して感謝を述べ合う中で規則性を見いだす活動を通して  
(A 活動内容)

24日の、時間ごとの気圧、天気、風、降水量を地域ごとに予報し、どの発表に対しても肯定的評価を与え合う発表ができる。  
(B 目指す姿)

#### ● 教師と子どもの信頼関係が構築できない状況の中では…

21日から23日の天気の変化をもとに、ミニティーチャーに指名し、グループと先生との橋渡し役を評価しながら規則性を見いだす活動を通して  
(A 活動内容)

24日の、時間ごとの気圧、天気、風、降水量を地域ごとに予報し、ミニティーチャーが褒められる場面の中で発表ができる。  
(B 目指す姿)

#### ● 自己肯定感を高めたいときは…

#### ● 家庭学習をやらせたいときは…

など、ありとあらゆる課題に対応可能! (手立てとして捉えても可)

### 3-3 | 授業のねらい次第で、子どもの姿を変えていくことができる

こんなふうに、ねらいを(A 活動内容)と(B 目指す姿)でつくるようにしておく、その中に活動のさせ方を入れ込むようにしていくことで子どもの姿を変えていくことがねらいに入っていくようになるよ。

### 3-4 | 授業は教育課題に対してほぼほぼ万能!

困っている学級の実態があれば、その改善に向けた活動をどんなふうにしなせばいいかを考え、ねらいの中に入れ込んでいくといいよ。そのねらいがあれば、ルナちゃんは、その達成に向かって、自ずと「手立て」(p.12)を取るようになるからね。

…以上が「授業は教育課題に対してほぼほぼ万能」と思う理由だね。



お兄ちゃん、終末の姿やねらいを設定したわ！  
 いよいよ、授業の導入だわ。導入って大事だと言われるけど、  
 どうすればいいの？



ポイントは3つかな。  
 (1) 必ず、終末の姿 (=ねらい) に向かう導入であること  
 (2) どの子ども一人残らず、やってみたいと静かに思うこと  
 (3) 問いかけた後は補助発問以外を言わないですむよう、  
 十分に発問の文言を吟味しておくこと

#### 4-1 終末の姿 (=ねらい) に向かっていく一歩であること

「導入で興味・関心を高めたい！」と思っている先生は多いよね。これはとっても大事なこと。導入で失敗したくない！と誰もが思うよね。そのためにも、やっぱり授業者が終末の姿 (=ねらい) を明確に描いて、そこに向かって意欲的になる導入がいいんだよ。

例えば…

- 前の時間の復習を子どもたちから引き出して、その復習内容だけではちょっと解きにくかったり、考えがバラバラ (ズレる) になってしまうような問いを出してみる。
- 解決したいと感じるけど、新しい知識や他の人の考えを寄せ集めないで解けない問いを出してみる。
- その時間の終末の姿と関連した、憧れを抱くようなことにふれさせてみる。

ただ、いずれの場合も、教室にいるどの子ども共通して一つの事象へ焦点化されていることが大事だね。

例として、教卓のそばに子どもを集めて事象を提示する、などかな。これは理科の時間によくやることだけど他の教科でも有効だと思うよ。

少しざわざわするような「問いかけ」も有効だよ。 「心理的な落ち着きのなさを生むことが大事」とも言われているよ。「やってみたい！」という気持ちと同じ意味かな。なんだか、導入をつくってみたくなってきたかな？

#### MEMO

#### 4-2 どの子ども一人残らず、やってみたいと「静かに」思うこと

そのような「やってみたい！」という気持ちにさせることは、9割の子ども、ではなく、一人残らず全ての子どもにとって大事だよ。「導入で、すべての子どもの心にアンカー (くさび) を打つ」とも言われているよ。なぜなら、一旦、心にくさびを打った子どもは、途中でふらふらしても、やがて戻ってくるからだ。誰一人、取り残さないことが大事だね。こういう授業づくりは教室に行きたい、学校に行きたい！と思う子を増やすよ (不登校未然防止にも)。



また、導入はあまり派手にやらない方がおすすめだよ。一見、見た目は静かな雰囲気が流れていたとしても、子どもの心の中がアクティブになっていることが大事だね。

#### 4-3 本当の「意欲」って、台風ではなく偏西風かも？！

学びへの意欲の捉えに、「習慣化」という考えも必要だね。それは、授業への流れを、普段から同じようにつくっておくということかな。例えば…

- 先生が授業の開始前に教室の後ろから入ってきて、教科書やノートが机にあるか、会話をしながら声がけしている。
- 開始とともに、先生が黙って10秒くらい全員の顔を見て、「いいね、みんな、先生の方を見ているね」と褒める。
- その後、まずは必ず自分の考えをもち、次に決められたルールでグループ内で意見交換、発表という流れができている。

などがルーティンになっていることも大事だね。事象提示でザワザワとした疑問の風 (=台風) と、常に学びに向かう安定した風 (=地球の自転によっていつも吹いている偏西風) の両方が大事だね。

#### 4-4 問いの言葉は吟味し、以後、あまり余計なことは言わないで…

導入で、先生が「発問」を言い換えてくり返し言っていることがあるよね。そんなとき、耳を傾ける子どもの思考は、いったん途切れてしまうこともあるかもしれないね。事前に吟味しておくといいよ。

## 「展開」「終末」のポイントは何？



お兄ちゃん、導入から展開～終末は、うまくつなげたいところだね。そのポイントを教えて！



展開は、授業の「本体」だね。導入で十分に高まった学びへの意欲が、そのまま継続、さらに高まっていく中で、仲間と交流しながらねらいに向かっていく活動が進むといいね。

### 5-1 導入で高まった意欲を展開へ うまくつなげていくためには・・・

#### (1) 何ができるようになればいいの、を全員が分かっていること

導入が終わる頃には、自分たちは何ができるようになればいいの、を、全員が明確に分かっているといいよね。最初から明確にならなくても、子ども同士のやりとりから明確になっていくといいね。

#### (2) (1) へたどり着く方法が分かる、または方法を自分で探せること

意欲が十分に高まっていれば、子どもの方から貪欲にねらいに向かっていく方法を探していくこともあるね。タブレットの活用も大事！こうなると、解決へ向けてのエネルギーが高まるね！

#### (3) 仲間との交流場面があること（交流のルールが身に付いている）

グループ活動は数分でもいいから毎時間やった方がいいよ。それは・・・

- 自分と異なる考えの存在に気が付く＝多様性を知ることができる。
- 考えの違いをすり合わせる過程でコミュニケーションを学ぶ。

これらにより自分の考えが広がり深まる＝自分としても、学級としてもより高次元の考えに練り上げることができるね。そして、授業の課題の達成だけでなく、人間性も高めることになるね。これは教育の目的（人格の完成を目指すこと）に近づいているね。

### 5-2 授業が構造的（ルーティン）であることで 展開はうまくいく

導入の4-4でもふれたけど、展開（だけでなく、いろいろな場面）においても、グループ活動になったら次の点を意識してグループ活動をするようにあらかじめ指導しておくことが大事だよ。

#### MEMO

- すぐに机を向かい合わせる。
- 司会役が、やることを端的に確認し、順に発言を求めるなどする。（挙手など。特定の人だけの考えで話し合いが進まないようにする）。
- 誰の発言に対しても同じように肯定的評価で温かく受け入れる。（うなずきや小さな拍手など）。

これらを確実に進めるには司会役への事前の指導が効果的だね。また、学校全体や同じ学区の小中学校で統一したやり方を行っているとうりやすいね。そこは校長先生の役割だね。

### 5-3 C評価の子どもを出さないために、常に手立てを打つ

これも展開だけのことではないけれど、評価とはA、B、Cにランク付けをして子どもを見取るためにするのではないんだよ。どの子どももA評価に近づけるために途中の様子を見ながらどんな手立てを打てばいいかを見極めるために行うものなんだよ。評価は子どもの幸せのため、ということだね。

### 5-4 子どもの言葉などを使ってまとめを行う ～どの子にも達成感を！～

終末のまとめでは、子どもの言葉や姿（言動）をできるだけ多く活用しよう。取り上げられた子どもは達成感を感じるだろうし、周囲の子どもたちも、自分事として捉えることができると思うよ。何よりも先生が行った授業がねらいを達成したかどうか、その成果が分かることになるからね。だから、先生の言葉だけでまとめをしてしまうことは、あまりいいことではないんだよ。

### 5-5 家庭学習や、次の時間の学びにつながるようにする

授業の締めくくりでは、振り返りだけでなく、次の時間につながるような課題に少しふれるようにしておくといいよ。テレビドラマなら「つづく」「to be continued」かな。次の時間へのつながり、疑問、好奇心に火がついた子どもは、自ら家庭で、復習か予習か、というより両方とも行うようになり、次の授業を、あたかも次回のドラマを待つ子どものようになることがあるよ。…学校が楽しいなあ、学校に行きたいなあと思うことだろうね。

#### MEMO



# 「評価」って何のためにあるの？ ……子どもの幸せのためだよ



お兄ちゃん、評価って大事なんだよね？成績をつける、つまり子どもを序列化するのって怖いんだけど…。



授業では、どの子にもねらいを達成させてあげたいよ。  
そう考えると「評価」って何のためにあるのかな？

…それは、子どもの幸せのためだよ！

## 7-1 十分に具体的な「終末の姿」を描いておけば それが評価そのもの

つまり、あらかじめ授業の終末でこんな姿になってほしい、というものを具体的に子どもの言葉や動きで描くことができているか、それができているかどうかを評価すればよいだけだと思うよ。

## 7-2 途中段階「導入」や「展開」での評価は 観点で評価するやり方も

ねらい（終末の姿）へ向かう途中での評価もあるよね。例えば、導入が終わった段階で「どの子も、活動への意欲を高めているか」や、展開での活動の際に「グループ内で出た考えを生かして自分の考えを広げ深めているか」など。意欲に関する評価、思考の深まりに関する評価なども。

指導案を書く場合は、1時間の授業では、導入で1回、展開で1回の途中の評価（形成的評価）を2回くらい行い、終末での評価は、全員がねらいに向かっていくよう最後の最後まで手立てを打ち続けることが大事だね。

ねらい ◇◇という活動を誰とでも仲良く行う活動を通して ◆◆◆◆についてノートに説明できる……	
展開	評価
○教師の働きかけ ●反応 ●手立て	●
	●
○ ◆◆◆◆	●◆◆◆◆

評価 ◆◆◆◆をノートに書いて説明できたか

最後の最後まで、どの子も大切に  
手立てを打ち続ける。

導入では、  
どの子も活動の意欲を高めているか？

展開では、  
どの子もねらいに向かう姿になっているか？

終末では、  
どの子もねらいを達成したか？

### MEMO

## 7-3 評価は子どもの幸せのためにあるんだよ。 けっして、子どもをA B C、あるいは5段階に 分けるためにあるのではない

私たちの本分は、「どの子も」学ぶ楽しさ、分かる喜びを得るような授業をすることだよ。決して評価、評定をするために授業を行っているのではないよね。

もし、C評価になりそうな子どもがいたとして「あの子はCがつくな。根拠は○○ができていないから。さて、Bは…、Aは誰かな」と分けて観察記録して授業を終えていることがあるけれど、それは違うんだよ。最後まで、子どもの姿をよりよくするために手立てを打ち続ける。それでもなお、ねらいに達成しなかったら、授業が終わってもなお、ねらいに到達するような手立てを打ちたいね。理想的なことを言っているけど、理想を求めることが大事だよ。

## 7-4 評価の書き方（A、B、C評価を一文で）

ルナちゃん、授業の評価をA B Cの3段階で示すとき、AとBをそれぞれ書いて、C評価は、Bにならなかった場合と判断してきたケースが多いのかもしれないね。

\*ここで、繰り返しになるけど、評価は子どもの幸せのためにあるのだから、まず、第一義的にはA評価をたくさん出すことを考えるよりも先に、C評価になってしまいそうな子どもをB評価まで引き上げる手立てを必ず打つことが教員としての使命だよ。使命だから命を使うわけだね。

さて、話を戻すと通常、A評価とB評価については以下のように2文つくっているケースがあるよね。（例として単純化しているよ）

- A評価：○○についてその理由を2つ以上ふれながら説明できる。
- B評価：○○についてその理由を説明できる。

これをゴシック太字を使いA評価とB評価を一緒に書いてみると

- **○○**についてその理由を**2つ以上ふれながら説明できる。**  
(太字はA評価)

…というふうに表示することもできるよ。そして、これだと評価を客観的に、より具体的にしていくことにつながるかもしれないね。



お兄ちゃん、今度、研究授業をやることになってしまったよ。  
嫌だなあ〜。



それは、いい機会が巡ってきたね。まずは1時間の指導案の書き方を  
覚えるといいよ！今後のためになるからさ！

### 8-1 毎時間、指導案を書くわけではないけれど…

1年間で100時間も200時間も授業をするわけだから、そのすべてで指導案を書くことは難しいね。（ただ、終末の姿や、活動内容を含むねらいはノートなどに書き出してほしいけれどね。）

でも、指導案を書く機会があったら1年に何回かは積極的に書いてみるといいよ。なぜなら、指導案を書く作業はその授業を「シミュレーション」することになるよね。それは…

### 8-2 授業をシミュレーションするという事は…

指導案を書き始めると、すぐに当該クラスの子どもたちの顔が浮かんでくるよね。そして…

- ここで、こう問いかければA男はこう答えるだろう！
- いや、でも、B子は、対立するこんな発言をするに違いない。
- であれば、こんな手立てを打つことで、さらに鮮明な対立を生むことができるかも！
- うーん、この程度の「解いてみたい」という気持ちでは、全員が課題に立ち向かっていかないなあ、問いかけを変えてみよう！

という具合に、頭の中では既に授業が始まってくるでしょ。シミュレーションは、やればやるほど授業が上手になるよ。だから、指導案を書く機会がやってきたら「はい、喜んで！」と答えるといいよ。

### 8-3 指導案なしでの授業ってあるの？

それはないと思うよ。だけど「授業プラン」「授業メモ」「板書計画」のように、「こんな問いかけをすると、あの子はどんな反応をするだろうから、そしたら、こんな追発問をして…」など、子どもの学びの予想図はいつも描いた上で授業に臨む誠実さは必要だね。

#### MEMO

### 8-4 1時間の指導案の型の具体（あくまでも例です）

○年○組（教科名）学習指導案  
令和○年○月○日 指導者○○○教諭 ○年○組教室

1 題材 ○○□□（○/○時間）

この部分に「この単元について」=単元観、子ども観、指導観と、単元の総時数をそれぞれ数行ずつ記載すると、2以下の本時の指導案が充実する。

2 本時のねらい

\*最初に、「終末での姿を超具体的に描いてから」ねらいを設定すること  
（活動内容やそのさせ方など）を通して …活動内容 A  
（どんなことができるようになるのか、具体的に）…目指す姿 B  
\* A 2行+ B 2行の計4行以上になってよい。

#### 3 展開

	○教師の働きかけ ●反応	●手立て 評評価 ◇備考など
導 入 ○ 分	○導入では、どの子も授業に参加できる問いかけは必須。 特に、学力が不調だったり、学校にアクセスしにくい子どもも何とか授業に参加したくなるような事前の手立ては授業者の使命！ ○次第に本時のねらいに迫っていくような発問をしながら、問題意識や活動への意欲を静かに高めていく。 (発問や右欄の手立てに明確に記入)	●教卓のそばに集める、対象を焦点化する、ズレや未知の課題、揺さぶりも必要。 ●この段階で、どの子どもも問題意識や活動への意欲を高める手立ては必須。 評 評価 この段階で、どの子どもも問題意識や活動への意欲を高めているかを評価する。
展 開 ○ 分	○導入でのエネルギーの高まりを確実に展開へとつなぐような補助発問を入れる。  主発問は四角囲みで書くこともあり。  ●予想される、理想的な子どもの反応を生き生きと描く。 ○終末へ行く前に、子どもが「はっ！」とするような問いかけも有効。	知 展開に向かって必要な知識や技能を主体的に身に付けていることを評価する。  ●左の理想的な子どもの反応が確実にできるよう、ここに手立てを挿入する。
終 末 ○ 分	○目指す終末の子どもの言動を詳細に記述する↓  はじめにこの部分を詳しく記載する。面倒がらず、実際の特定の子どもを想定して。長くなって指導案が裏面に続いても一向に構わない。  ○家庭学習や次の時間の学びへつながるような振り返りを行う。	思 左のように、深まった自分の考えを言語でアウトプットしている具体的な姿を生き生きと描き評価する（どの子ども達成感をもっているかも重要）。

裏面へ続いてよい。

いい授業をするために優先すべきは具体的な終末の姿を生き生きと描くことなので。

#### MEMO

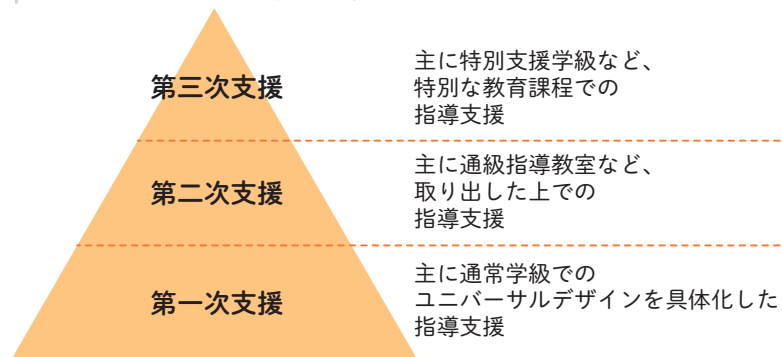


お兄ちゃん、これってどういうことかな？



下の図のように三段階で考えていくと分かりやすいかも！

### 9-1 第一次支援で、どの子も学びやすくなる環境設定を！ ～ユニバーサルデザインについて～



支援の度合いを三層構造で示した模式図

片岡 (2015) を参考に再構成

上の三角形の一番下の部分、ユニバーサルデザインについては、日本授業 UD 学会の WEB ページから紹介すると、

授業 UD とは、特別な支援が必要な子を含めて、通常学級におけるすべての子が楽しく学び合い、「わかる・できる・探究する」ことを目指す授業デザインであり、指導の理念です…これは**指導方法ではなく、指導の理念**です。

通常学級を担当するどの教師も目指すべき、言わば、教育の哲学だと言えるでしょう。こうした指導の理念に対しては、様々な指導方法があります…例えば「**焦点化・視覚化・共有化**」(桂 2011) の視点で授業をつくることで、全体指導の効果が上がることもあります…。

(一般社団法人 日本授業 UD 学会「UD Q&A」を参考に筆者作成)

と書いてあるよ。つまり、授業のユニバーサル化は方法・手段ではなく、教育の考え方だということだね。だから、方法はその時々で状況で様々なことが考えられるし、どの子にとっても学びやすくなる環境設定であれば臆せず、試してみるとということだね。

<参考文献>

一般社団法人 日本授業 UD 学会、「UD Q&A」、一般社団法人 日本授業 UD 学会 ホームページ、<http://www.udjapan.org/UDQA.html>、(参照 2025-12-19) より要約

片岡美華、ユニバーサルデザイン教育と特別支援教育の関係性についての一考察、鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編 第66巻、2015、pp.21-32

MEMO

\*指導案なら、手立ての欄に確実に入れ込む！

左のページの第一次支援で行うユニバーサルデザインにかかわる手立ても、(指導案をつくるかどうかは別として) 下記のように手立てとして意図的に実施していかなければ効果は期待できないよ。研修などで「ああ、ユニバーサルデザインっていいなあ」、と思うだけでなく、実際の授業で実施することが大事だね。その際、少なくとも(小)単元を通して共通してやってみて、子どもの様子や変容を見取って取り組み評価をした方がいいね！

	○教師の働きかけ	●反応	●手立て 評価 ◇備考など
			(多目的室など広い空間での授業の際) ●後ろの子どもにも教師の声が確実に聞き取れるよう、ピンマイクを用いて拡声しながら発問をする。
展 開			(様々な教科での説明場面で) ●提示した二つの事象の違いが分かりやすいよう、色分けして示す。  (情報入力の特徴が異なる子どもへの対応) ●言語からの理解がしやすい子と、視覚からの理解がしやすい子の両方に対応できるよう、指示は言葉と表示の二通りで行うようにする。

### 9-2 第二、三次支援では通級教室指導者と学級担任の連携が大事！

文部科学省によると、第二次支援に該当する通級指導教室についての概要として「…自立を目指し…学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い…」とあるよ。一斉指導による授業とは異なる形態の、個別の教育で成果をあげていくスタイルだね。

第三次支援はさらに、個別の指導を行っていく特別支援学級などでの教育を示しているね。

この第二、第三次支援を受けている子どもたちも授業によっては30人以上の一斉で学習する場面があるよね。そんなときもサブティーチャーあるいは引率の先生の指導をもらいながら、上の指導案に示すように適切な手立てを打っていくことは必須だね。

MEMO

## 第 2 章

# 単元の授業づくり



ここからは単元の授業づくりだよ。  
こんなふう to 子どもを変えていきたい！と、夢を描きながら…  
小単元で考えた方がいいかもね。

# 単元を創ろう！ ～夢を描きながら！～

## 1時間だけでは無理でも、(小)単元なら子どもは変わる！



お兄ちゃん、いよいよ単元づくりね。なんか、わくわくするのはなぜ？



一つの単元は、シリーズものドラマや映画と同じだからね。5時間とか7時間かけて、価値のある教材を子どもたちにかかわらせていけば、その姿は必ず変わるんだよ。

(1-1では以下の順序性が逆になっているけど、どちらでもありだよ)

### 10-1 まずは、子どもの実態をよく、よく見よう！

#### <子ども観>

ルナちゃんは、子どもを次のような姿にしたいと思ったことはない？

- 私語やざわつきのない、落ち着いたクラスにしたい！
- いじめが発生しないよう、親和性、寛容性を高めたい！
- 不登校にならないよう、子ども同士のつながりを創りたい！
- もっと主体性を育てたり、自己肯定感を高めたりしたい！
- 先生と子どもの関係をさらに良好なものにしたい！
- もっとみんなで励ましながら学習目標を達成したい！

これらの課題は、1時間の授業で改善を図るよりも、5時間から7時間くらいの単元で考えた方がいいよ。

### 10-2 次に、その単元のもつ魅力を考えよう！

#### <単元観>

ルナちゃんが、今、行おうとしている授業(単元)で扱う教材の価値は何だと思う？

…価値とは、その教材の良さ、学ぶ意味、こんないいことを学べる教材だ、などだよ。このことをルナちゃんがしっかりともてていると、いい単元をつくることができるよ。

それは教科書を読んでいると「ここだよなあ！」「そうそう、この考え方！」と思うことでいいんだよ。あるいは教科書には明確に出ていないけれど自分のこれまでの経験や時間をかけて学んだことから出てくることもあるよ。

#### MEMO

- この単元でのあの学びは、絶対にあの子たちに伝えていきたい！
- 前の時間とつながっているなあ～、次の時間へこんなふうには！  
…以前学んだ単元とこんなふうにつながっているなあ～。
- 日常生活、豊かな生活、安心・安全な生活とつながっているなあ。

など…。同じ単元でも先生によって、この単元観は大きく異なる場合があるんだよ。ただ、共通して押さえなければならないこと(身に付けさせたい力)はしっかりと学ばせる必要があるけどね。

### 10-3 そして、こんな実態の子どもに、こんな価値のある単元を密接にかかわらせて、こんな姿にしていきたい！ そのためには、どんな授業をどんな順で指導していけばいいのか、その構想を考えよう！<指導観>

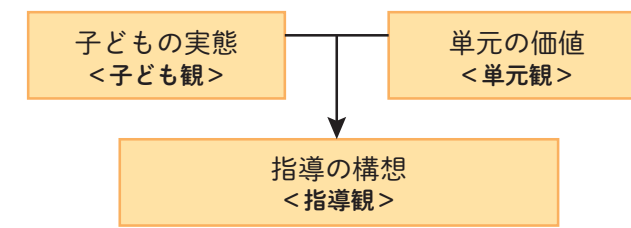
例えば、ルナちゃんのクラスの子どもたちが特定の仲良しの子としか話をしない、固定グループ化している実態があったとするよ(子ども観)。そして、迎える単元が7時間で「地震とその揺れ」という内容だとして、単元末に災害時の避難生活を想像しみんなで助け合うことの意義を考えることができる学びだとするよね。

この場合、どんなふうに単元を構想するかな…？ 通常は、例えば、導入では通常、過去の大地震の揺れのすごさを映像を使って疑似体験させ、2時間目以降は地震の揺れの種類と大きさなどに入っていくことが考えられるよね。

だけど、子どもの実態(固定グループ化)の改善を図りたい訳だから、単元の導入では地震の揺れというよりも避難生活が長引いたときに起こりうる悲惨な状況を実感する導入から入るのはどうかな。

その後の時間が教科書に沿って進んでも、時折、この悲惨な避難生活に立ち返り、単元末で「非常時に助け合う精神は普段、誰とでもつながっていることが大事」ということを学ぶようにするのもどうかな？

こうやって、子どもの実態を、単元のもつ意義にふれさせながら、子どもの姿を変えていけるね！



(子ども観と単元観は逆の場合もある)

# 夢を描き、戦略的に単元指導計画をつくろう！ ～考え方～

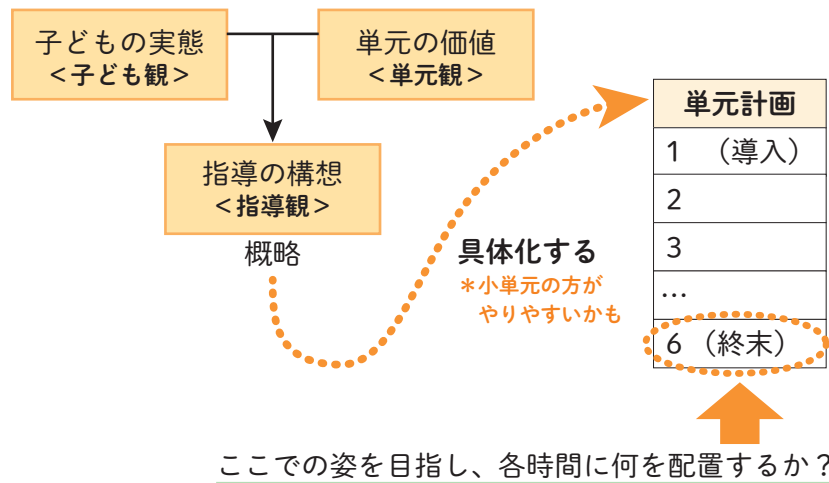


お兄ちゃん、授業がしたくなかったよ！

そうだね！実際に授業をやるには、具体的な計画＝単元指導計画が必要だよ。でも、そんなに難しく考えないでいいよ。単元のねらいと、各時間ごとに何をやるかを描けばいいんだよ。

## 11-1 | 思い描いた子どもたちの姿を目指して…

下の図を見て！子どもの実態（子ども観）と単元がもつ価値（単元観）をうまくつなぐ単元構想を練ったら、あとは、下の図のように単元計画に落とし込んでいこうね。



このときのキーワードは「戦略的に！」だよ。戦略的とは「単に計画があるから」とか「教科書通りで」ではなく、「この数時間をかけて子どもたちをこんな姿にしたい」という具体的な目標をもち、導入やその後の時間、そして単元末ではどういうまとめをしようか、と計画していくことだよ。

## 11-2 | 結果的に教科書と同じ流れになったとしても…

こうやって戦略的に単元の計画をつくったら、教科書と同じようになったとしても、それは目の前の子どもの実態を変えようとしてつくった「オーダーメイドの単元」だよ。それができると子どもたちの学びへの姿勢が変わってくるよ。先生の努力が子どもに伝わるんだろうね。

## 11-3 | 試してみたい指導方法、使ってみたい教材や授業のDX化なども全て単元指導計画の中に入れ込み、1時間1時間の授業で実現！

ルナちゃんは勉強家だから、様々な研修によく参加しているよね。そこで、「ああ、こんなふうな導入っていいなあ！私もやってみよう！」と思うことがあるでしょ？あるいは指導方法のヒントが載っている書籍や雑誌、SNSでの情報からも授業で使える様々なヒントから、やっぱり「これをやってみたいなあ！」と感じるときは多いでしょ？でも、それらを確実に授業で試してみるには、単元指導計画の中のどの時間に落とし込み、その時間でどう子どもにかかわらせるか、というふうに具体化しないと、ほとんど実践に結びついていかない可能性があるよ。

（生産工場ラインで、カスタマイズしたい製品があるときに、必要な部品をベルトコンベアに乗せなければその製品はつukれない、という考え。）

## 11-4 | 参考になる指導方法などにふれたとき、それは、授業づくりのどの部分のことを指しているのか、意識すること（p.2の図）

つまり、研修や書籍、SNSなどで「これはやってみたい！」と思う指導方法などにふれたときは、それが「単元観」の醸成に寄与する内容なのか、子どもの見取りに関する「子ども観」なのか…単元構想を練る際に有効なことなのか、あるいは1時間の授業の中でも特に導入なのか、展開での活動なのか、など。このことを意識しながら研修などを受けるといいね。自分の授業を短期間でよりよく変えていくことができそうだね。

## 11-5 | 2～3時間の小単元レベルで、簡単でいいから数時間のスパンでの授業を考え、その中の1時間1時間！という考えで授業をつくろう

こう考えると、単元をさらに細かく分けてある「小単元」レベルで授業の構想を立てていくといいかもね。そこでは最初の時間は導入的な要素が入ると思うし、最後の時間は達成感のあるまとめや次の学びにつながる内容が入ってくると思うよ。授業づくりって楽しいね！

MEMO

MEMO

# 夢を描き、戦略的に単元指導計画をつくろう！ ～実際の書式例～



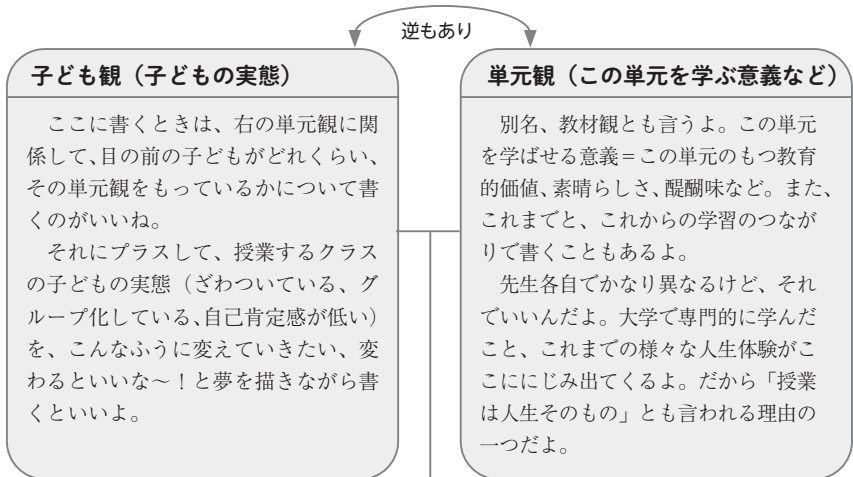
お兄ちゃん、実際の単元指導計画の書き方を教えて！

一つの例を示すね。必ずしも同様の形式でなくてOK！

## 1 単元名（題材例） ○○○○（しょう！）（全○時間）

単元名（題材名）は下記「2 単元について」を書いたあとで正式に決めてもいいかもね。また、その単元の主だった活動内容から考えてOKだよ！子どもが取り組んでみたいと感じるタイトルがいいね。=教科書の文言から引用してもいいし、少しリメイクしてもいいよ。夢を描こう！

## 2 単元について



## 指導観（指導の構想）：授業の順の概要と特徴、共通した手立て、指導方法

こんな実態の子どもへ、このような価値のある単元を、どんなふう指導していけば効果的なのかを戦略的に書く。接続詞を用いながら時系列で、がいいかな。

あの子たちの姿を変えていくために継続して行ってみたい手立てや、先日の研修で得たことをこの単元の何時間目でこんなふうに取り入れる、ということもOK！

\*この学びを進めていく子どもの姿を生き生きと、夢を描くようにたくさん語ろう！

\*この三つのいずれかの部分に、学習指導要領で重視されていることなどを絡めるのもいいね。ただ、私たちは学習指導要領があるから（各種教育機関含む）授業をやる、というよりも「目の前の子どもを幸せにしたい、こんなふうに変えていきたい！」という教育愛が原動力となり授業を行っている、ということを忘れずにね！

## MEMO

## 3 単元のねらい

単元のねらいは左記「2 単元について」で書いた内容を意識した方がいいよ。書き方は3-1から3-4でふれた内容と似ていて、「主にこんな活動やこんな活動を通して」「（単元の終末では）こんな姿になる」という書き方がおすすめだよ。時系列で何をやるのかを自分で確認できるからね。終末の姿は理想的な姿を生き生きと記述してね！

観点別に書く方法もあるよね。指導書はそのような書き方になっているからね。ただ、三つの観点は相互に関係し合っていて似たような表現になっていることもあるから、それだったら一本化して上のように「活動内容」と「目指す姿」で書いてもいいかもしれないね。

## 4 単元計画

	○□□□主な教師の働きかけ、発問など	●手立てなど 知 思 学 評価
導入 0.5 h	<p>*どの子ども、以下の導入の発問を受け止めることができる準備、復習を入れる。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">この発問は起承転結の「起」。単元を貫く問題意識、意欲につながる。</div> <p>……、…</p> <p>*理想的な反応を記述する。 (これを引き出す手立てを右側の欄に記載する。)</p>	<p>●学力不調や不登校の子が意欲的になれるよう、事前に声かけや宿題を出し導入で発言する場を設定する。</p> <p>●どの子どもこれからの学びに向けて問題意識や活動意欲が高まるよう、○○する。</p> <p>知 どの子ども問題意識や活動意欲が高まっている。</p>
展開 ○ h	<p>*ここで、導入と展開をうまくつなげる活動を入れる。ただし、十分に問題意識や活動意欲が高まっていて、活動のやり方・手順が分かっているならば自動的に展開に移行することもあるね。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">*この発問は起承転結の「承」。この単元の主たる活動につながる。</div> <p style="text-align: center;">知</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">*起承転結の「転」。これまでの学ぶからさらに深い学びへ！クライマックス。</div>	<p>●主体的、対話的な協働活動になるよう、導入で高まった問題意識や意欲につながる言葉かけを行う。</p>
終末 2 h	<p>*ここには、終末の活動へ向けて必要な準備、整理がなされるような活動、復習を入れる。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;">*起承転結の「結」。達成感、充実感を伴うような場になるとよい。</div> <p>・□□□</p> <p>・☆☆☆</p> <p>*単元指導計画をつくる際に設定した、単元のねらいを意識し、子どもの言葉や姿でまとめを行う。</p> <p>○振り返りを記述し、発表する。</p>	<p>思 *左の*を意識して評価を書く。</p> <p>*まとめと振り返りの違い →まとめは単元にかかわる内容 →振り返りは汎化（他の場面と関連）させたり、次の学びへ向かう意欲を喚起させたりするようにするのもいいかも。</p>

## 5 評価

\*単元の導入、展開、終末で評価してきたこととほぼ同じでよい。

## MEMO

# 第 3 章

## 研究主任の役割



ここからは研究主任の役割だよ。  
教務主任や管理職の先生も読んでね。



ねえねえ、お兄ちゃん、研究主任を任されて不安だわ。  
何をどうすればいいのかわからないよ。



そっかー。具体的な仕事内容を話すから読んでみてね。

### 13-1 | 研究主任は、やりがいのあるお仕事だよ

研究校ではなく一般校での研究主任は、同僚の先生方が楽しく授業づくりに励める環境設定をすればいいんだよ。みんなから喜ばれるよ。

### 13-2 | 研究主任 12 か月

#### (1) 4月にやること

##### ① 研究主題の決定

前年度の研究の成果と課題が残っているから、それをベースに職員会議で提案すればそれでOKだよ。もし、複雑なら、スクールリーダーの先生に聞いたりしながら、次のように簡略化できればいいね。

- 前年度の研究の成果と課題はそれぞれ2～3個以下に絞る。
- 研究主題は踏襲も視野に入れるけど、分かりにくかったら、次のように誰でも取り組める研究主題に変更もありだよ。

#### 推奨例：シンプルな研究主題

導入では、どの子ども、主体的になり、

展開では、どの子ども、協働的に活動を進め、

終末では、どの子ども、達成感を得る、授業づくり

\*これだと「教科が違うから授業を見ても意味がない」ということもなく教科問わず同じ視点で授業を観察、協議することが可能だね。

##### ② 研究内容・方法などの決定

研究内容・方法という文言の定義は様々な解釈があるから、ここでは簡潔に捉え、ア)どんな手立てをとり、イ)どういう計画で行い、ウ)どう検証するか、だと思ってね。

ア) 手立て (ちょっと極論だけど、必ずしも設定しなくていいんだよ)

手立てが研究主題に含まれている場合は、設定する必要はないかも。例えば「学び合いによって」「ICT機器を活用して」など。

#### MEMO

そして、協議会などで授業を振り返る際は、直接、手立ての有効性を検証するのではなく、子どもたちがどう変わったか、その要因は、どの手立てが有効だったからと語り合うべきだよ。似ているようで似ていないんだよ。

#### イ) 年間の校内研修計画

これも前年度からの引き継ぎで大体決まっていると思うよ。シンプルに、何月にどんな校内研修をするか、を年度当初に決めておくことだね。だいたい月一回のペースで校内研修があるよね。主なものは…

- 1人1授業公開 (授業観察や協議会は14、15参照)
- 必要に応じて特別支援教育や学級経営 (担当者の話でも可)
- 今年度の校内研修の成果と課題のまとめ

などかな。これらの日付を教務主任と相談して決めておこうね。

なお、校内研修のレジュメ (柱立て) と司会進行も研究主任だけが行わず研究推進委員会のメンバーで輪番にするのがいいよ。授業観察や協議会の進め方などは(14、15)などを参考にしてく。

#### ③ 研究推進委員の役割分担

- 各回の校内研修の司会進行、会場 (機器) 準備、記録と内容の校内発信の分担→これらも簡潔でよい。(A 4 半分、箇条書き)
  - 公開授業指導案の点検のやり方の決定  
管理職の先生からも添削してもらおうといいね。
  - 最新の教育情報や文部科学省の情報を流す人
- \*なお、公開授業指導案の点検は、書面で回す方法もあり。授業公開後の協議会で出た意見をまとめて回す、という役も必要だね。

#### (2) 5月～6月にやること

- 指導案などの書式を提示、その書き方見本を示し、公開授業開始！  
これも必ずしも研究主任が担わなくていいよ。先生方の中でやってくれそうな先生にお願いしてもいいよ。あとは計画に沿って！

#### (3) 12月～1月にやること

③の一つ目の●でふれたことが順調に行われているのであれば、それをまとめて、次年度の研究へつなげていけばOKだよ。そのときは研究推進委員会を開いた方がいいね。

#### MEMO



お兄ちゃん、授業観察のポイントは？

これについてはいい提案があるよ！立場、年齢、専門教科が異なっても行える授業観察を紹介するね。

### 14-1 | 授業観察の進め方

(1) 1校時分、丸々、一つの授業を観るようにするよ。

(2) 観察者は指導案に記載されている「ねらい」を確認します。同時に指導案の終末部分に記載されている終末の姿と整合しているはずなので、そこも確認しよう（整合していないと成立しない）。

(3) 観察する子どもを分担するよ。

- ① 一人で観察なら教室の全員を。
- ② 二人で観察なら、窓側の3列と廊下側の3列（例）
- ③ 三人で…（以下同様）

(4) 授業を時系列で以下の三つの時間で分けて、観察対象の全ての生徒の様子について「ねらいに向かっているか」を主軸に観察しよう。

① 導入の段階

- どの子どもも、ねらいに向かい、課題への問題意識や意欲が高まったか？

○そのようなになっている子どもは誰と誰？要因は？

△そのようなになっていない子どもは誰と誰？要因は？→代案も！

② 展開の段階

- どの子どもも、ねらいに向かい、導入で高まった意欲を継続・高めながら、主体的対話（協働）的に課題に取り組んでいるか？

○そのように取り組んでいる子どもは誰と誰？要因は？

△そのように取り組んでいない子どもは誰と誰？要因は？→代案も！

③ 終末の段階

- どの子どもも、達成感をもちながら、ねらいを達成したか？

○そのような状態になっている子どもは誰と誰？要因は？

△そのような状態になっていない子どもは誰と誰？要因は？→代案も！

#### MEMO

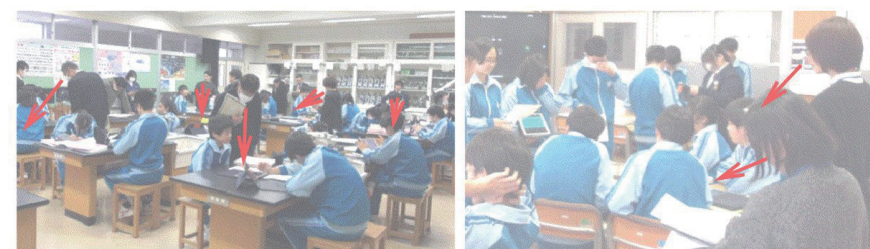
### 14-2 | 授業観察の記録用紙例

次のような用紙をあらかじめ配付しておくのもいいかもね。

#### 授業者の意図を理解し応援する授業観察用紙（参観者持参）

( )年( )組 教科( ) 授業者( ) 観察者( )

導入	○ねらいに向かう姿 ・その要因	△そうならない姿 ・その要因 ・ねらいに迫るための代案
展開	○意欲が継続・高まっている姿 ・その要因	△そうならない姿 ・その要因 ・ねらいに迫るための代案
終末	○ねらいを達成した姿 ・その要因	△そうならない姿 ・その要因 ・ねらいに迫るための代案



この写真のように、ランダムではなく、範囲を固定して子どもの学びの様子を、上記シートにのっって時系列で観察する。

#### MEMO



お兄ちゃん、協議会のポイントは？



これについてもいい提案があるよ！ここでも、立場、年齢、専門教科が異なっても、校内で共通して行える協議会を紹介するね。一つの例として捉えてね。

### 15-1 | 授業観察の進め方

(1) 授業者が観察のお礼+「ねらい」を確認の意味で語ろう。(数分)

(2) 導入、展開、終末に区切って、以下の協議を繰り返すよ。

① 観察者からの報告

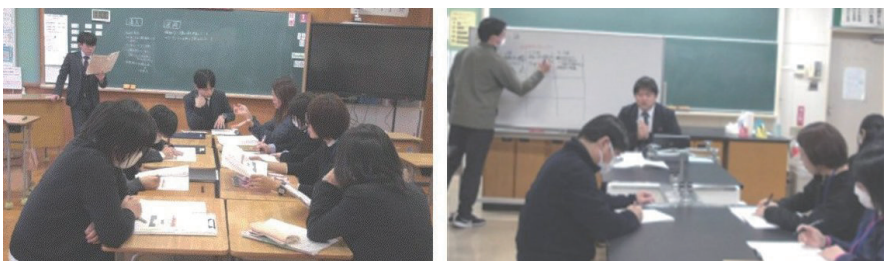
- 14-2で示した、○、△について報告をしてもらう。
- その際、その姿になった要因を推察して語ってもらう。
- △については、あなたの意図を理解した上で、そのねらいを達成するためにこんな代案がありますよ、とコメントをもらう。

② それに対する授業者のコメント例

- ○については、さらに効果的なことを考えたい！
- △については、改善のヒントにしたい！

(これを導入、展開、終末の2場面で行う。)

(3) 最後に、司会者が、参加者と意見交換しながら、協議会で出た内容を価値付け、授業者への提案としていくつか(三つくらい?)にまとめて、提案として授業者へ伝えよう。



この写真は、授業観察者が自分の担当した子どもたちの姿を、時系列で報告している場面。(子どもの姿で語ることが大事。そしてその姿になった要因も推察してもらう。△については、ねらいに向かうなら、という視点での代案も考える。)

### MEMO

\*前ページ下の写真は、2枚とも授業後の協議会の様子だよ。授業者が、観察者からの報告(子どもの姿、その要因、△の場合の代案)を聞きながら、コメントを述べている場面だよ。

こうすることで授業の導入、展開、終末をくまなく振り返ることができて、優れていた点だけでなく、授業者のねらい(意図)を汲みながら、「そのねらいを達成するためにはこんな代案もありますね!」という姿勢で改善点を遠慮なく伝えることができるんだよ。(授業参加者は授業者の応援団という位置づけになる。)

### 15-2 | 検証するのは、どの子もねらいにどれだけ迫ったか

手立ての有効性から入るのではなく、まずは、ねらいに向かっていく子どもの姿を追っていきべきだよ。そして、導入、展開、終末で授業を分けるとすれば、その時々で、どの子が、どの段階で、どんな姿を呈していたか(ねらいに向かっていったか、そうでなかったか)、について検証するのが大前提だよ。

そして、その姿になった要因について、みんなで会話していくような協議会であるべきだよ。

### 15-3 | 授業の開始から終了までの、全てを再現。

ときに、授業者が本当にねらいたかったことの議論も

こんなふうに授業観察と協議会を進め、その都度、授業者を交えて議論することで、誰一人、1分たりとも逃さない授業の再現・検証を行うことができるよ。その中では「授業者が本当にねらいたかったことって、こういうことなのでは?」と、ねらいの妥当性にまで及ぶこともあるよ。本来、ねらいは授業前に十分吟味する必要があるけど、よりよりねらいの設定があったということだね。

### MEMO



お兄ちゃん、公開場面はやっぱり単元終盤のクライマックス場面、つまり発表場面などがいいよね。

うーん、そうかなあ？

### 16-1 | 公開場面は終盤とは限らない

授業公開は単元の終盤の発表場面がいいと思われがちだね。研究会でも単元を通して練り上げた考えを発表、意見交換する授業が多いね。でも、次のような視点で考えれば公開場面はたくさんあるよね。

### 16-2 | 単元の「導入」を公開する良さ

導入段階の醍醐味は、単元の起承転結の「起」の部分だから「この単元を通して継続してはたらく問題意識や活動意欲がどう高まっていくか」だと思うよ。しかも9割、ではなく全ての子どもが、だからね。

- これまでの学びをつなげている姿
- 単元を貫く大きな課題を自分事として受け止めている姿
- 学習が不調な子どもが意欲的に授業に参加しようとしている姿

などの「妙」が隠されているよ。ピュアな状態で観察できるね。

### 16-3 | 単元の「展開」を公開する良さ

「展開」の醍醐味は、単元の起承転結の「承」や「転」の部分だね。「承」や「転」の部分では次のような見どころがあるよね。

- 導入の時間で高まった問題意識や活動意欲を継「承」、発展させていく姿と、その手立てとは？
- 課題解決に向かって氾濫する情報から必要な情報だけを取り出している姿と、その手立てを取っているのか？
- また、そうやって取り出した情報を組み立てて解決に向かっている姿と、その手立てとは？
- グループ活動で仲間と対話することで自分の考えが深まっている姿と、その手立てとは？
- 「転」の瞬間の子どもの姿と、その手立てとは？

#### MEMO

### 16-4 | 単元の「終末段階」を公開する良さ

終末段階の醍醐味は、単元の起承転結の「結」の部分だよ。集大成としての発表場面はもちろんだけど、次のような場面の公開も醍醐味があるよ。

- 振り返り場면을工夫することで、学んだことを日常生活やキャリア教育の視点で「汎化」している姿と、その手立てとは？
- 学習指導要領ではふれられていないような内容に切り込んだ発展課題をみんなで挑戦している姿と、その手立てとは？

### 16-5 | つまり、授業公開は単元のどの場面でもOKだね！

このような視点で考えると、授業公開する場面は単元の1時間目から終末の最後のまとめが終わったあとの振り返りなどの時間の、どこでも価値ある公開ができると思うよ。

また、前のページ「14、15」でふれたような「授業観察」や「協議会」のようなやり方をするのであれば、どの教科の先生方も共通した視点で授業を「行う」「観る」「語る」ことができると思うよ！

以下、「14、15」からの再掲

#### \*授業観察

観察者は固定分担した上で、以下の三段階で子どもの様子と、そのようになった理由、代案を記録する。

- ・ 導入では、どの子も問題意識や活動意欲をもてたか？
- ・ 展開では、どの子も導入で高まった問題意識や活動意欲をもとにした活動が進んでいったか。
- ・ 終末では、子どもの言動を用いてまとめを行い、学びが定着し、どの子も達成感をもち、家庭学習や次の時間への意欲につながったか。

#### \*協議会

観察記録の報告会という位置づけで

- ・ 観察者からの報告と授業者のコメントのやりとりで、今後の具体的授業改善につなげる。

#### MEMO

## 研究主題を再考してみる

&lt;スクールリーダー：教務主任の先生や管理職の先生も&gt;



お兄ちゃんは研究主任をずっとやってきたから、研究主題について、何か考えがあるよね？



研究主題はその学校の授業づくりを進める指針になる大事なものだね。その設定や設定理由、文言に着目して話さね！

## 17-1 | 研究主題の設定、設定理由と主題に迫る手立ての決定

多くの場合、前年度からの踏襲の場合が多いよね。それはそれで、学校の方針があるだろうから、おすすめだよ。前年度までの校内研修で「何が成果で何が課題として残ったのか」があるはずだから、それを引き継いでマイナーチェンジしていくことで、4月、5月は乗り切れるかもね。……ただし、次のことに注意してね。

## (1) 研究主題に、方法（手立て）が含まれているとき

例えば「学び合いを通して」や「ICT機器を活用して…」など。この主題自体は悪くはないのだけど、これらの方法（手立て）はあくまでも手段であって、目指すものは子どもの変容だよ。子どもの変容を語らないで手段の有効性を語り始めると、深まりのない研究になってしまうことがあるかもね。だから、このタイプの研究を進めるときは、きちんと「子どもの変容」で研究成果を語るようにしてね。

## (2) 研究主題に、教育課程の工夫が含まれているとき

例えば、「モジュール学習を取り入れた教育課程の工夫」とか、「教科を横断しての指導計画の工夫」など…。これも切り口は教育課程だけど、広い意味では教育の手段の研究になるよね。(1)でふれたように、きちんと「子どもの変容」で研究成果を語るようにしてね。

## (3) 研究主題に、目指す子どもの姿が含まれているとき

例えば、「主体的に課題を解決していく子どもの育成」とか、「協働的に学びを深める子どもの育成」、「導入で全ての子どもが意欲的になる」など、子どもの姿が研究主題になっているときは、子どもの変容で研究を進めるわけだからOKだね。共通した手立てを設定するとき、工夫の自由度を高めて研究を進めるのもいいかもね。

## MEMO

\*主題や手立てを変更した方がよければ、年度途中でも臆せず文言を整理してみても構わないと思うよ。物事の価値には二面性があるよね。計画を変えずに予定通り行う価値と、その時々でベターなことに変更する価値と。両方大切だけど、判断することが大事だね。

## 17-2 | 研究主題設定の理由を決めよう！（次の三つを記述）

## (1) これまで（前年）の研究で出た課題から

これはもっともオーソドックスな研究主題設定の理由だよ。これまでの取り組みでの成果はこうで、残った課題はこうなので、だから今年はこれに取り組む、という論理性が感じられるからね。昨年からいる先生にとっても受け入れやすいと思うよ。

## (2) 目の前の子どもの実態から（こちらを前にもってきてもOK）

これは中核だよ。全ての教育活動は子どもの実態ありきだからね。子どもの実態からスタートすることは研究の第一歩だね。なぜなら、今、先生方が一番悩んでいること、困っていること、取り組みたいこと、目指していきたいことを研究していくわけだから成果が先生と子どもにストレートに反映されるよね。子どもがいるから教育研究がある、ということだね。決してその逆「研究を行うために子どもがいる」のではないということだね。

## (3) 教育界の動向から

この視点も、研究主題設定理由の中に一部入れ込んでおいた方がいいよ。子どもの実態を変えたい、その際、ゼロベースから研究を行うのでは効率が悪いからこれまでの研究成果と課題の上に立ったとき、向かっていく方向のヒントを示してくれるからね。

## MEMO

## 第4章

# スクールリーダー、 地域リーダーの役割



上：スクールリーダーになったルナちゃん  
下：研究主任のテラくん



私、スクールリーダーになったよ！

それも教員としての一つの生き方だね。

僕も研究主任で頑張るよ！

この仕事大好きなんだ～。

### 18-1 | スクールリーダーって？

スクールリーダーって、僕と同じ研究主任や学年主任、あるいは教務主任や管理職の先生たちのことだと思ってね。そして、黒子になって担任の先生や教科の先生を全力で支援していこうね。

ルナちゃんの支援で、ある先生の授業づくりがうまく行って、子どもの姿が変わったとしても、その先生に華をもたせようね！

### 18-2 | 改めて 学校ぐるみの授業づくりで、良い学校をつくらう！

#### (1) 子どもにとって

授業づくりでは、これまで述べてきたように、そのプロセスの工夫で、学校にアクセスしにくい子どもたちや学習がちょっと不調な子どもたちにも元気を与えることができるよね。

仲違いしている子ども同士も意図的に授業の教材を媒体にすれば会話ができるかもしれないね。先生のことをあまり好意的に思っていない子どもも同様、自己肯定感や規範意識、倫理観が不調な子どもたちに対しても同様だよ。目指したい子どもの姿は授業づくりで、ね！

#### (2) 先生方にとって

そして、授業づくりを先生方同士で語り合い、授業を見合うことで、そのことを楽しんだり、切磋琢磨したりする風土が醸成でき、先生方も元気になるよね。先生方同士のつながりも生まれ、それまであまりコミュニケーションが図れなかった先生方同士でも新たなネットワークが生まれるかもしれないなあ！

#### MEMO

#### (3) スクールリーダー <研究主任の先生、管理職の先生>にとって

さらに、管理職を含むスクールリーダーの先生方とも、授業づくりという土俵の中で同僚性というコミュニケーションでつながるね。

#### MEMO

### 18-3 | 授業づくりのプロセスを通して“学校力”を高め、 教育目標に迫る！

(1) 管理職の先生を含めた全教職員で、「学校が目指す子ども像に迫る授業」について日常的に、授業について「語る」「見る」「行う」ようにし、授業づくりを軸に同僚性を高めようね！

(2) こうすることで、様々な指導力をもつ教職員の力が結集され、学校力が高まるよ！そして、課題のある子どもの問題がある言動も減り、働き方改革も進むよ。

…行事は授業の延長上としての捉え方も必要です。

(3) 保護者や地域と、授業づくりの過程でちょっとした連携を図ることで、学校の応援団になってもらおうね。

これらのことから、授業づくりはあらゆる関係づくりの媒体だね。

もっと言うと、保護者や地域とのつながりも、単元構成を工夫し、学習支援にかかわっていただくだけでなく、単元末に発表場面を設定し、その観衆になっていただくようなことも考えられるよね。その際は簡単なコメントを伝えていただき、子どもの返信を地域内で取り上げていくことで、地域づくりや町づくりも可能となるような気がするよ。そして、このようなことは保護者や地域の人たちが望んでいるような気がするよ。

# 今の時代、「生きる目標」を共有しながら、「授業づくり」や「学級づくり」を！



今の時代に「みんなで目指していく、生きる目標」があるからこそ、誰とでも仲良く、ルールを守って、勉強を頑張ろう！という気持ちになるってことね！



そうだね。何もない中で「仲良くしよう」「ルールを守ろう」「勉強を頑張ろう」と言っても、うまくまとまらないことがあるかもね。でも、「今の時代」ってどんな時代なの？

## 19-1 | 今の時代での「生きる目標」って？

今はVUCAの時代の世界と言われているよね。VUCAとは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実)、Complexity(複雑性)、そしてAmbiguity(曖昧性)の頭文字をとったものだよ。不安定で先が読めず答えが一つでない時代とも言えるよね。このことを私たちの生活の中での出来事と結びつけて考えてみると、次のようにもなるよね。

- ア 世界の中で何が課題なのか、が分かりづらく、着地点も不明瞭で、
- イ そんな中、SNSなどで匿名性の中、主語が不明な文章も多く行き交い、
- ウ そのため、内向き思考の中、人・物・事との接しにくさを感じ、異文化間紛争も頻発している。
- エ したがって、事象の前後の繋がりを見い出す機会も少なく、
- オ 今、目の前の何を解決・達成しなければならないかを、誰もが適切に把握できない中、
- カ さらに、フェイクも含めたあまりにも不要な情報が出回り、
- キ 結果、自分の主張すらできず達成感や目標ももてない循環になる。

こんな時代の中をたくましく生き抜いていくんだよ、と子どもたちに語りかけ、「決して1人では生きていけない。また、特定の仲の良い人たちだけで集まっても、様々な課題に対応できないよね」「タイプの異なる人も、力を合わせなければダメだよ」という考え方を子どもたちに語ったらどうかな？ そんな「よりよく生きていくんだ」という目標をみんなで共有するところから、「誰とでも仲良く」「ルールを守って」「勉強を頑張る」ことに向かっていくんだと思うよ。

### MEMO

## 19-2 | 今の時代での「授業づくり」で大切な7つのポイントは？

以下は、左のページのア～キに対応した、身に付けるべき力を考えて、授業づくりの際の留意点としてまとめてみたものだよ。

- ア 事前に終末の姿（子どもの具体的な発言や記述、動作、作品、解くべき問題）を具体化し、
- イ 主述と修飾語、接続詞、文末表現の4点重視の言語活動を進め、
- ウ UD化の中、複数の親和的關係づくりをグループ活動で進める。
- エ 家庭学習を活用し不登校を含むどの子も参加を促し、（以下、導入、展開、終末で）
- オ この授業で何を解決するのか、どんな課題に対しても明確にし意欲を高め、
- カ 多くの情報から取捨選択し、必要なものだけを整理し、
- キ 分かりやすく表現し、達成感を得てさらなる高みを目指す。

これらのことは、単元づくり、単元の課題設定など、単元の中で意識することや、どの授業でも大切にしたいことなど、様々なことがあるよね。いずれも、これからの時代に大事な力だと言えるよね。そして、これらは今後も学習指導要領で重視されている力と調和的だよ。

## 19-3 | 「学級づくり」で大事なことは？ ～子どもたち同士、そして先生と子どもとの人間関係を把握すること（学級分析）～

子どもたち同士が、そして、先生と子どもたちがどんな関係にいるのか把握することは大前提だよ。あの子はいつもA男のグループから強く当たられていて不満をもっている、先生はいつもBさんの発言ばかりを取り上げるけど、私たちのことも見てほしい、などの心の声を想像することは極めて大事だね。この場合、改善の手立ては、「授業では全員の子どもに励ましの声がけする」など、シンプルな手立てでよく、授業中に講じることが大事だね。

## 19-4 | 「生きる目標の共有」「授業づくり」「学級づくり」の三つは、どれが一番大切なの？

そうだね。これは順番があるわけではなく、同時に進んでいくのかもしれないね。よく、「学級経営が基盤」とか、いいえ「授業づくりを進める中で学級づくりを進めることが大事」、いえいえ目標こそが大事などと言われるけど、それは、いずれも大事だね。

### MEMO



「人生のすべて」だなんて、お兄ちゃん、ちょっと大げさね！



そうだね！（笑）

授業って、「どんな背景のある、どんな状態の子どもでも、幸せに向かうこと」に対して万能だと思うんだ。

## 20-1 | 授業での先生の使命って？

ルナちゃん、授業についていけず、教師の想像以上に「授業の時間が切なく辛い」と感じている子はいないかな？

- 様々な理由で「生きづらさ」を感じている子
- 何かきっかけで「孤独感」にさいなまれている子
- どうせ私なんか…と「自己肯定感を下げている」子
- 子ども同士、大人と自分など「関係づくり・仲間づくりが苦手」な子

これらの解決に向かうとき、この資料の3-2でふれたような授業を意図的に行うことは、先生方の使命（命を使うこと）だと思うんだ。

## 20-2 | 授業での先生の使命って？ （これまでの生き方のすべてを出す場）

このように考える理由はね…

### (1) 単元観を見い出すときに…

例えば、授業づくりのプロセスで単元観を考えると、教師自身がその単元の価値をどう見い出すか、自分の人生経験が関係してきているはずだよ。例えば保健体育の先生2人と会話を紹介するね。

A先生は、身近な人が水難事故に遭って命を落とすという悲しい経験をおもちだったんだよ。その先生にとっての水泳授業は、まさに、絶対に水難事故で命を落としてはならない、その中で泳ぐことの素晴らしさを伝えたいと語っていたよ。単元観だと思うよ。

B先生は、水泳競技で中、高、大学と活躍した選手だったんだ。この先生は、目標タイムを設定し、少しでも高みを目指して頑張ることの大切さを水泳の授業を通して伝えたいと語っていたよ。

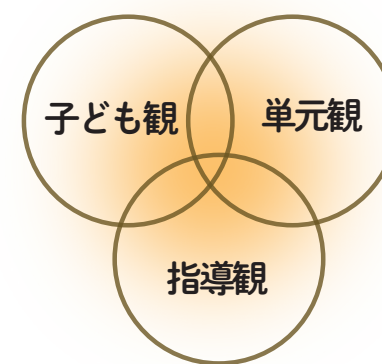
そして、この2人の中では、お互いに異なる単元観をもっているけれど、2人とも人生をかけているよね、という会話になっていったのを感じているよ。他の教科でも人によって、自分の歩んできた人生経験が活かされて授業をつくっているのだろうと思うと、「授業は人生そのもの」という言葉が浮かんでくるんだ。

### (2) 子ども観を見い出すときに…（子どもの実態を汲み取るときに）

目の前の、一人一人の子どもの実態を、丁寧に正確に見取るときにも、その先生の人生経験は如実に生きていると思うよ。今までに「生きづらさ」「孤独感」「自己肯定感の低さ」「関係づくり・仲間づくりの苦手さ」などを感じた経験のある先生は、その種類と度合いによって、同じように温かいまなざしで子どもをみるときに、それぞれ違う感性で子どもを見取っていると思うよ。歩んできた人生によって異なる部分はあるけれど、いずれも正解で、それぞれの先生で異なる単元観とマッチさせていっていると思うよ。

### (3) 指導観を構築するとき…

上記からの続きになるけど、それぞれの人生経験に基づいた(1)(2)からは、やはりそれぞれ異なる指導観（単元構想）が生まれてくるよね。心と心がつながるグループ活動を多用しようとか、一人でじっくりと考えを深める場面を重視しようとか、ICT機器の活用についてもそうだね。汎用的な手立てでも、それを有効にする「入れ込み方」が異なってくるのはその人の人生経験も影響してくるのかもしれないよ。この部分だけとってみても、「授業は人生そのもの」だと思うんだよ。



その先生が生きてきた「人生」が  
または、これから生きていく「希望」が映り込む



お兄ちゃん、またまた、大げさね！

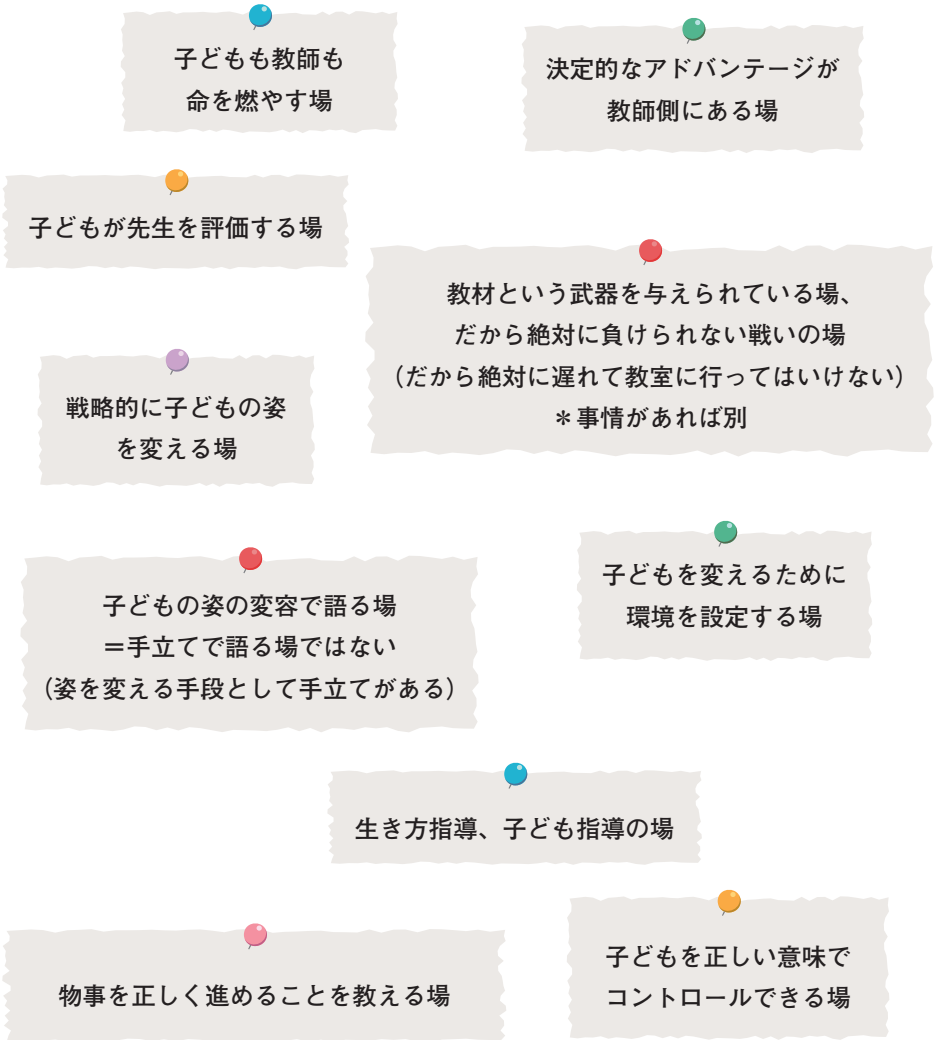
そうだね！（笑）

ある先生方に聞いてみたところ、次のような回答があったよ。紹介するね。

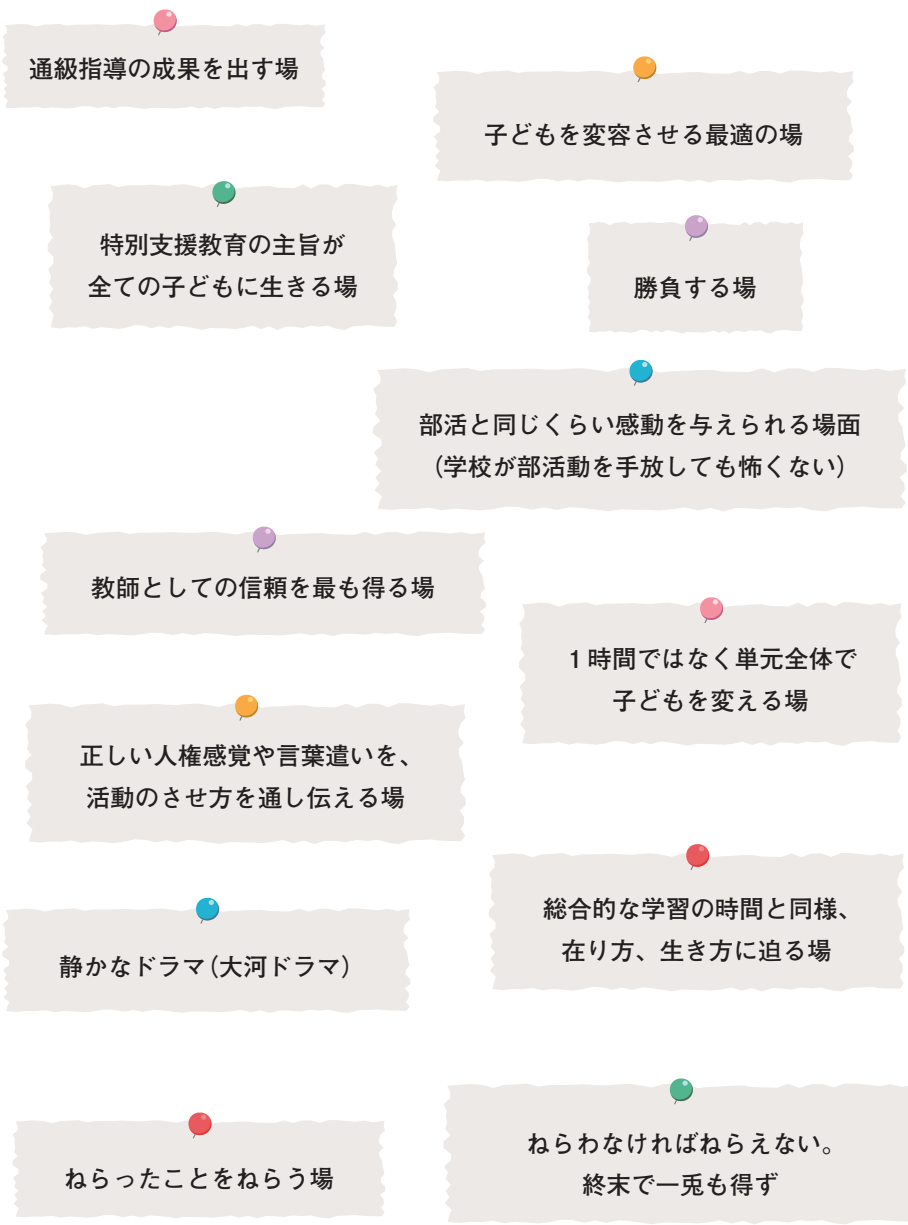
**Q** 「あなたにとって授業とは？」 →

**A** 聞いた先生の人数だけ回答がありました。

MEMO



MEMO



授業で「自分づくりを！」

様々な教育事象に直面したときに、一貫して自分の中にブレずに軸として存在するような「教育理念」「教育哲学」のような柱を、自分の言葉としてもつことができればいいね。若いうちから、ね。



お兄ちゃん、「論文指導」って大変だよな！？

下を読んでみて！

論文指導は、言い換えると、その先生の良き実践を促す、絶好のチャンスなんだよ。

### 22-1 | さあ、論文指導をやってみよう！

「論文を書くなんで自分はできない」という声を多く聞くよね。でも、論文を書くということは「目の前の児童生徒の幸せのために」ということだから、本当は前向きに取り組んだ方がいいよね。

### 22-2 | 論文の柱（項目）を覚えてしまえば楽だよ

そこで下記に示すような論文の1～7の柱（項目）を覚え、いつも論文の形でまとめて記録・発信するといいよね。こうすることで、論を立て実践を行うことを繰り返す「理論と実践の往還」が進み、自信ある教育観の構築にも繋がるよ。とくに「1 はじめに」は重要だよ。

### 22-3 | 論文の7つの柱（項目）

論題は（後付けでもよい）「1 はじめに」を書き上げ、自分がやりたいことを主題と副題で表すと、どうなるかを考えてもいいかもね。

#### 1 はじめに（三段落で）

第一段落では、実態を赤裸々に具体的に書く。こんな意図で活動させてきたがこんな姿にとどまっている、など。

第二段落では、理想的な目指す姿を書く。その姿とは学習指導要領でも言われていること、と後付けで。夢を描くように生き生きと！

第三段落では、冒頭で「そこで」という接続詞を用いる。そして、目指す姿へ変えていくための手立てを書く。複数あってもいいよ。

#### 2 研究の概要、研究仮説など（2は省略しても可）

ここは、「1 はじめに」の三段落の中で、生徒の実態、目指す姿、手立てを丁寧に書いてあれば、それを要約するといいよ。そして、常にここに立ち返れば、ねじれやズレのない実践論文になるよ。

#### MEMO

#### 3 研究の内容

「1 はじめに」の第三段落を参考に書くといいよ。

#### 4 研究の方法・・・検証の方法や評価の方法まで書くといいよ！

##### (1) 単元名（対象学年なども）

##### (2) 単元の構想（手立てを含む）

ここでは、「1 はじめに」や「3 研究の内容」でふれた「目指す姿」に迫るために、例）まず、単元の導入では…。次に、…。…単元の終末では…。こうすることで〇〇〇を具現化したい、などと書くといいよ。

##### (3) 単元指導計画

###### ① 単元のねらい

こんな活動やこんな活動をこんなふうに行うことを通して、こんな姿になるなどと書くといいよ。指導書などからの文言は参考程度にね。

###### ② 単元指導計画（主たる課題は四角囲みにするといいいね）

##### (4) 検証方法

ここでは、「1 はじめに」の第一段落で書いた実態が、第三段落で書いた目指す姿にどれくらい近づいたかを、客観的に語るための検証をするよ。例として…

- ・事前事後の詳しいアンケート結果を数値化し比較する方法
- ・子どものエピソード(言動)を相当数集め、その姿から判断する方法

#### 5 実際（学びの様子）

ここでは、4 (3) ②の単元指導計画に沿って、実践の様子を時系列で記述していくよ。その際の留意点は…

- ・児童生徒の姿で語る。数値も適宜用いる。
- ・時系列で区切って検証したい部分を語る。

#### 6 考察

ここは箇条書きでもいいと思うよ。記述する内容は、「5 実際」で記述した姿になった理由を妥当性のある範囲で記述するといいいよ。

その際、今回の手立てが有効だったと語ることができればバッチリ！

#### 7 課題

ここは今回の実践で達成できなかったこと、あるいは実践で見えてきた新たに目指す姿などを箇条書きで書くよ。必要に応じて「8 参考文献」もまとめよう。

#### MEMO



お兄ちゃん、私、学力向上担当の指導主事になったわ。

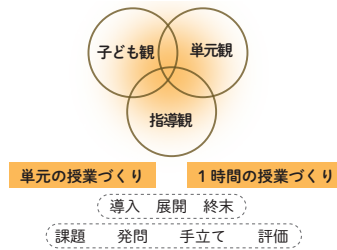
現場の先生方を励まし続けてね！

学力向上担当の指導主事としての心がけを話すね。

### 23-1 | まずは、授業づくりを体系的に捉える習慣を！ (図は再掲)

教育界には、授業づくりや学力向上に関して、実に様々な有益な情報が流れているよね。課題提示やその工夫に関して、また、探求的な学びのプロセス、あるいは発問の仕方、振り返りとは…など。単元づくり全般に関する話題も多く、いずれも実践したいと思うことが多いよね。

それらは、現場の授業参観や研究会、研修会、雑誌や出版本などからの情報だけど、その情報が、授業づくりのどの部分(右図)を指しているかを意識しながらだといいいね。



また、単元観、子ども観、指導観の構築にプラスになるような、もの見方・考え方、あるいは、さらに大きな範疇にはなるけれど、人としての在り方や生き方に関する情報も突き詰めて考えれば、授業づくりに繋がるものだよ。これらは自身の世界観を広げ深めることに…。すべて子どもたちの幸せに結びつくといいいね。

### 23-2 | 授業の指導は、「吟味されたねらい」ありきで！

授業の構想を練る際も、指導案をつくるときも、検討するときも、授業公開するときも、協議会で振り返るときも、終始一貫して大事なことがあるよ。それは「吟味されたねらい」ありき、ということだよ。ねらいが定まっていない、あるいはねらいが揺らぐ中では、いずれの議論も論点が定まらず、うまく集結しない場合が多くなるよ。もちろん、議論をしていくうちに、当初設定したねらいの修正を行うことはあるよ。その時点で「仕切り直し」としながら、やはり目指す方向は一つの中での議論が有効だね。手立てのみに焦点を当てた議論には注意が必要かもしれないね。

### 23-3 | 「指導」とは、姿を変えるところまでを「指導」という。また、元気を与えなければ「指導」とは言わない、と考えよう！

「あれだけ強く言っておいたから大丈夫」「あれだけ繰り返し指導したから伝わったはず」と、指導後に思うことがあるよね。でも、これは、職務を遂行したとは言えないんだよ。

自分が「言ったこと」「伝えたこと」が、相手の心を動かし、相手の言動が変わるところまでを見届ける、変化がなかったら、さらに有効な手立てを講じることで、ついに相手の心が動き、言動が変わることで初めて「指導」したことになるんだよ。これは、現場の教職員の方々にとっても同じことが言えるよね。

### 23-4 | 「指導」は、相手が、今、行っていることを軸に！

その教職員や学校が普段からやっていること、あるいはやろうとしていることを事前にキャッチしておき、そのことを軸に指導していくと、元気が出る要因になることがあるよ。日々、目一杯頑張っている先生方にとっては、まったく新しいことを始める体力はないかもしれないけど、今、行っていることを軸にした、その延長上の取り組みであれば、納得感のある取り組みができると思うよ。

学校を訪問する際は、極力、全職員の名前にふれ、各先生方が現在行っている教育をさらに推進するように励ますといいいね。学校力を高めることも同様だよ。その学校が普段から取り組んでいることを軸にして、励ましながら改善点を付加していくようにできるといいね。

### 23-5 | 授業観察のあとで指導を行う場合は…

指導主事として指導したいことを、公開した先生の具体的実践に合わせて語るようにすると、相手にストンと落ちていくと思うよ。そのためには、前述のように普段から体系的に授業づくりを捉えておくと、自分の中で整理された様々な引き出しが増えてくるよね。そうすると、授業参観しながら子どもの姿を捉えたり、その姿が表出する要因を探ったりするときに有効だね。チョコちゃんの言うように「ぼーっと生きて…」にならないといいいね。(笑)

避けるべきは、その日に見た授業については感想程度しかふれずに、あらかじめ用意してきた内容を一方通行で語るような指導だよ。指導のヒントは参観授業にたくさんちりばめられているんだよ。

# 「目指す子ども像」を、 下記1～6の「授業づくり」を

# 通して達成する。

1人一台タブレットを有効活用し、授業で使う学習ソフトと家庭学習ドリル、学力調査を相互に関連させた学びの展開

◆たとえ教科書通りの単元配列でも、学校（学級）が目指す

子ども像に迫るオーダーメイドの単元を作りましょう！

## 1 目の前の「子どもの実態」をよく見る

●まず、目の前の子どもの姿をよく見ます。そして、こう変えていき、さらに伸ばしたい姿（生き方・態度）をしっかりと描く（無理だと思っても）

例えば…

- ① 私語やざわつきのない、規律性のある、落ち着いたクラスにしたい。
- ② いじめが発生しない、親和性を高めたい。
- ③ 孤立や不登校傾向の生徒が減るような、親和性のあるクラスにしたい。
- ④ もっと主体性を育てたり、自己肯定感を高めたい。

👁️ 視点

- キャリア教育（＝生き方教育）
- ・ 生徒指導 ・ 特別支援教育
- ・ 人権教育、同和教育 ・ 道徳教育

## 2 「単元観」(教材観)を強くもつ

●この単元のもつ価値、魅力を授業者なりに、自分の言葉で理解する。

●または、この単元で学ばせたい、

- ① 知識や技能
- ② 思考力、判断力、表現力
- ③ 学び方や考え方、人間性

を整理することで学ぶ意義を授業者として実感！

- 前後の単元との繋がり、違い
- 他の教科・領域との関連

こうすることで、  
単元の学びを登らせたい  
価値のある山にする！

集約

## 3 単元の構想（シナリオ）を描く

こんな実態の子どもたちに、こんな価値のある単元で。  
こんな手立て・工夫を一貫して行うことで…

- 例
- a 課題やその出し方、単元配列の工夫
  - b 発問、活動のさせ方（グループ活動のさせ方）、かかわらせ方の工夫
  - c 発言のさせ方、つながり、リボイスの工夫
  - d 発表場面や振り返りテーマの工夫

最終的に…

こんなことができ（わかり身に付け）…  
こんな生き方・態度を身に付けた子どもたちにしたい！  
この段階で具体的な姿として「思い描く」想像力が大事

子どもは教師の思い描く以上の姿にはならない



## 4 実現に向け戦略的に単元指導計画を創る

単元のねらい(例)

- A| こんな活動などをこんなふうに行うことを通して
- B| こんな姿になる。  
(内容+学び方、生き方・態度)  
\* Bを先に描く（単元末）

小単元で分けるとよい(章・チャプター)

単元の流れ	
1	導入ではこんな活動を通して、こんな問題意識を生じさせて…
2	前時で生じた問題意識をこんな活動を通して、次時につながるようにして…
⋮	そして、ここではこんな活動を通して、こんな姿になり…
6	終末の授業に向けここではこんな活動を通して、こんな姿になり…
7	終末では、こんな活動を通してこんな姿になる。

## 5 1時間ごとの授業を積み重ね、目指す子ども像に迫る

1時間のねらい(例) …4よりも具体的に

- A| こんな活動をこんなふうに行うことを通して
- B| こんな姿になる（内容+態度面も）。  
●これを指導案の終末に先に書いておくとよい。

	学習活動	発問&反応	手立て
導入	どの子ども、落ち着いた雰囲気の中、問題意識や活動意欲が高まっている。⑦		
展開	どの子ども、導入で高まった問題意識や意欲が繋がりを深まっているか。①		
終末	●ここに！ どの子ども、達成感をもっているか。⑦		

⑦①⑦…教科を超えて確認できるポイント

## 6 授業づくりのプロセスを通して“学校力”を高め、教育目標に迫る！

- A| 管理職を含めた全教職員で、「学校が目指す子ども像に迫る授業」について日常的に「語る」「見る」「行う」ようにし、授業づくりを軸に同僚性を高めましょう！
- B| こうすることで、様々な指導力をもつ教職員の力が結集され、学校力が高まります。問題行動も減少、働き方改革も進みます。…行事は授業の延長上としての捉え方も必要です。



- C| 保護者や地域と、授業づくりの過程でちょっとした連携を図ることで、学校の応援団になってもらいましょう。授業づくりはあらゆるコミュニケーションづくりの媒体です。

MEMO